

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.185

ご注意！新型コロナに便乗した悪質商法

新型コロナウイルスの感染拡大で、悪質業者から電話勧誘を受けたり、外出自粛によってネットショッピングの利用が増えたりしています。悪質業者やサイトに気を付け、おかしいな、困ったなと思ったら消費生活センターへご相談ください。

◆事例1 ワクチン接種の不審電話

「新型コロナワクチン接種には予約金が必要」などと言う電話のほか、新型コロナ関連の給付金を受け取るために金銭を要求する事案が発生しています。市役所や保健所などの行政機関・大手企業のなりすまし、不審な電話やメールに注意しましょう。

◆事例2 インターネット通販トラブル

「注文した商品が届かない」「お試したと思ったら定期購入だった」などの相談が寄せられています。信用できるサイトか、定期購入でないか、返品ルールはどうかなど、注文する前にしっかり確認しましょう。

◆事例3 SNSを通じた悪質商法トラブル

「新型コロナの影響で収入が減った。収入を増やすために副業の情報を購入したが、だまされた」などの相談があります。SNSを通じたもうけ話には乗らないようにしましょう。

あぐりコラム 23

西脇市では黒田庄和牛や山田錦、イチゴなど全国に誇れる地域食材が生産されており、さまざまな農業振興施策を推進しています。このコラムでは、本市の農業に関する旬な情報をお伝えします。

■問合せ 農林振興課(市役所内線322)

旬菜館には毎朝新鮮な地元野菜が並びます

新型コロナで変わる食生活

新型コロナウイルスの影響で、多くの人が食生活への意識や行動に変化が起き、地域の直売所に注目が集まっていることが、さまざまな調査から分かってきました。

昨年、京都市のある会社が行った調査によると、約7割の人が、「食生活における意識や行動に変化があった」と回答。具体的な変化の1位は「自炊する機会が増えた」で、自宅で過ごす時間が増えたことが要因と考えられます。この他にも、食生活に気を付けたり、野菜を積極的に取ったりするようになったという回答が並び、健康意識の高まりが感じられます。一方、検索サイト・グーグルにおける食に関する検索回数の推移では、「直売所」というワードが前年比で150%増加。地域の食料供給源として直売所の役割が再認識されています。

身近に農地が点在し、「北はりま旬菜館」という直売所で新鮮な農作物が簡単に手に入る——。生産者と消費者の距離が近いことは、西脇市の農業の特長です。もう少し不自由な生活が続きますが、この機会に、日常生活圏内で手に入る安全・安心な農産物を味わいませんか。



▲「密」を避けるため、保育者は各園からリモートで研修に参加

新型コロナウイルスの感染が拡大して以降、認定こども園や幼稚園では感染防止対策を徹底し、保護者の協力を得ながら「子どもたちの育ち」と「教育・保育の質の保証」のために保育環境や職員研修を工夫してきました。また、質の向上推進委員会は各園を訪問し、園の取り組みを視察しました。

就学前教育・保育の充実を目指して
コロナ禍での認定こども園・幼稚園の取り組み

新型コロナウイルスの感染が拡大して以降、認定こども園や幼稚園では感染防止対策を徹底し、保護者の協力を得ながら「子どもたちの育ち」と「教育・保育の質の保証」のために保育環境や職員研修を工夫してきました。また、質の向上推進委員会は各園を訪問し、園の取り組みを視察しました。

全ての保育者を対象とした幼児教育研修では、「子どものトキメキ・ヒラメキを生かした保育」をテーマに、芳田こども園で公開保育を実施。現場経験の浅い保育者対象の保育実践研修は、「子どもが楽しく遊ぶための環境と遊び」がテーマでした。密にならずに保育をすることが不可能な中、参加した保育者は他園の保育環境を参考にしながら、取り入れたい保育方法や子どもたちが「遊びたい」と思える遊びはどんなものかを考えました。この他、西脇市保育協会が主催する食育・アレルギー対応分野研修では各園を通信ソフトでつないで開催。講師の大学教授らが、コロナ禍で奮闘する保育者にエールを送りました。

保育者が学び合う
「幼保交流研修」

園の取り組み
「就学前教育・保育の質の向上推進委員会」からの意見

心のスケッチ 143 新成人の言葉に思う 人権教育課コラム

1月第2月曜日の「成人の日」。西脇市民会館で行われた「兵庫県ろうあ者新年大会兼成人祝いのつどい」に参加しました。聴覚障害者協会や手話サークルのメンバーら、県内各地から200人を超え、人が来場し、会場は温かい雰囲気になりました。つどいには、県内在住で聴覚障害がある新成人12人も出席。みんな二十歳の門出を祝福しました。

新成人代表としてあいさつした西脇市の荻野捺実さんは、健聴者と一緒に過ごした小学生時代のことを話されました。言葉が全て聞き取れないこと、話の内容を理解するのに周囲の子より遅れてしまうことなど、いつも不安を抱えていたそうです。みんなが笑っている場面で、なぜ笑っているのかが分からず、何となく笑って周囲と合わせたこともたびたびあったと話されました。さらに続けて、「これまで幾度となくつらいことはあった。でも、それを乗り越えることができたのは恩師や友人、両親という心の支えに

なってくれる人たちがいてくれたから」と述べられました。西脇市が平成28年12月に「西脇市手話言語条例」を制定してから、はや4年が過ぎました。私は市内で聴覚障害に対する理解や手話を使いやすい環境づくりが進んできたのを肌で感じています。聴覚障害者と交流会に参加する機会も、ずいぶん増えました。交流会のたびに、その人に寄り添い、どんなサポートができるのか一緒に考え、行動できるようにになりました。

つどいに参加した恩師の一人が荻野さんに語り掛けました。「成人おめでとう。中学時代が懐かしいね。困っている人がいたら、互いにサポートし合おうとする温かい学級が大好きでした。あなたの人柄がそうさせたんだろうね」

互いの存在を大切に、共生社会を創造するためのヒントが、ここにあるように感じました。今の私にできることを、一つ一つ実践していこうと思います。

(人権教育課)

市長からの手紙 86

西脇を元気に!!

西脇市長 片山象三

日本のへそから世界へ発信できるエンジニアの育成

県立西脇工業高校陸上競技部の全国高校駅伝大会での活躍は、西脇市民の誇りです。その活躍は、スポーツだけではなくありません。同校は工業高校で唯一「ひょうごスパーハイスクール」先進校枠指定を受け、地域企業と連携しながら、3年間ものづくりについて学びます。先日、今年度の成果報告会がありました。生徒たちはコロナ禍でさまざまな制約がある中、地元の事業者から職人技を学び、西脇

市の特産である金ゴマの選別機やイチゴの成分を分析して鮮度と糖度を保つ保管法の開発をするなど、私はその発想の豊かさに驚きました。

また今年度、県下で唯一設置されたロボット工学科は、レゴブロックのミニカーで、プログラミング(コンピュータ)のプログラムを設計し学習の出席授業を小学校で実施。小学生は高校生が考えた内容だけでなく、さまざまなことにも興味を持ち、授業の狙いを超えた大きな成果が見られました。コロナ禍ではありませんが、高校生たちが地域課題を見つめ、工夫を凝らしながら研究を進め、着実な成果を出していることに大変驚くとともに、心強く思いました。

将来を担う子どもたちには、私たちの世代が救えなかった人々を救える、発明できなかったものを発明する、叶えられなかった夢を実現する人になってほしいと感じています。

成果報告会で生徒たちが研究内容を発表